

工事説明書

自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯機〔エコキュート〕 屋内外設置型(通電制御型)

形名

[一般地仕様]

EHP-3738GPEH

(貯湯ユニット：ET-3738GPEH)

[耐重塩害仕様]

EHP-3738GPEHE2

(貯湯ユニット：ET-3738GPEHE2)

【通電制御型】

このヒートポンプ給湯機は申請により、通電制御型として電気料金の割引が適用されます。取替えて機種変更した場合でも電力会社へ申請してください。

この機器は「時間帯別電灯」契約・「季節別時間帯別電灯」契約専用です。機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。なお、設置工事終了後、工事説明書は取扱説明書・保証書・取扱ガイドと共にお客様にお渡しください。

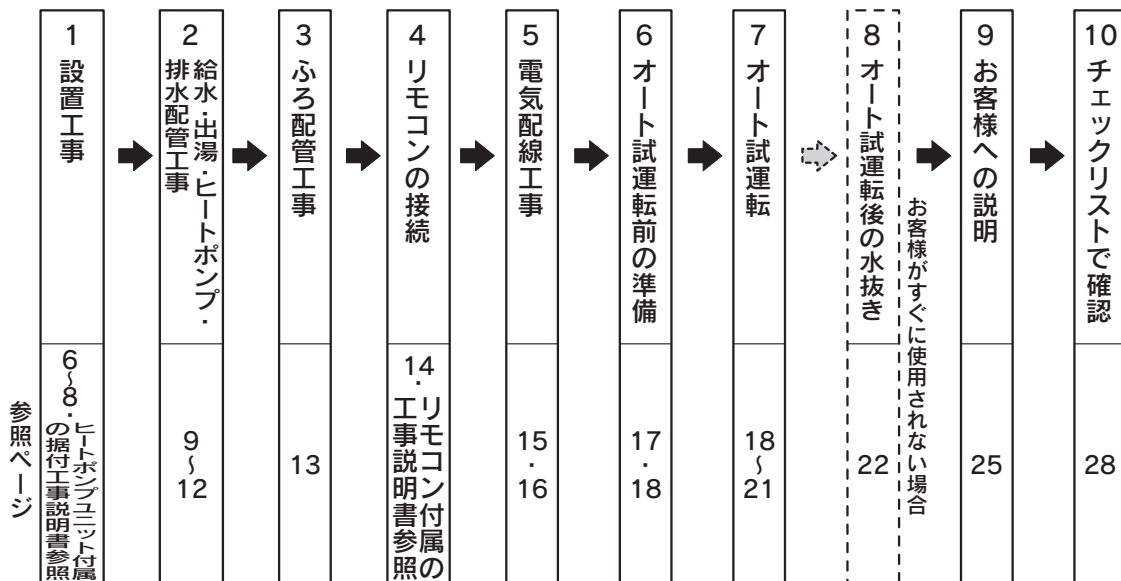
「エコキュート」の名称は電力会社・販売メーカーが推奨する自然冷媒ヒートポンプ給湯機のアピールです。

も く じ

工事の流れ	2
付属品の確認	2
別売部品	2
特に注意していただきたいこと	3
外形寸法図	5
設置工事	6
給水・出湯・ヒートポンプ・排水配管工事	9
ふろ配管工事	13
リモコンの接続	14
電気配線工事	15
オート試運転前の準備	17
オート試運転	18
オート試運転終了後	22
マニュアル試運転	23
エラーコードについて	24
お客様への説明	25
チェックリスト	28

●製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

工事の流れ



付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。




取扱説明書	取扱ガイド	工事説明書	保証書	ドレンソケット (ヒートポンプユニット付属)

別売部品





- 音声リモコンセット (DR-43V) (台所リモコン (CMR-2701V) / 浴室リモコン (YST-2701V))
- 増設リモコン (CMR-2505S)
- リモコンパイプセット
- リモコンコード
- アース棒
- 上部振れ止め金具
- 脚部カバー
- 配管カバー
- アンカーボルトセット
- 絶縁パイプ 15A (0.5m)
- 一口循環口
- ペアチューブまたは
ツインチューブまたは
ハイブリッドホース
- 保温材付アルミ三層管
- アルミ三層管用部材セット
- 保温材付架橋ポリエチレン管
(VE-KPH-2・3・5・20S)
- 架橋ポリエチレン管用部材セット
- 積雪対応品 (ヒートポンプ用)
- アイブロック (ヒートポンプ用)

特に注意していただきたいこと










- ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 危険	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- 絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		一般的な危険・警告・注意		必ず行うこと
	アースを接続すること				

 危険	
浴室内に設置しない	
●貯湯ユニットは浴室内に設置しないでください。感電や事故の原因になります。	

 警告	
火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください	
据付けや移動は販売店または据付業者が行ってください	
●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災・感電・水漏れの原因になります。	
機器は丈夫な設置台(床)に設置すること	
●満水時の重量に充分耐えられる丈夫な不燃材の設置台(床)に水平に設置してください。強度が不足すると機器が転倒するおそれがあります。	
アース工事をすること	
●アース工事を確実に行ってください。 アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。	
電源は单相 200V を使用すること	
●電源は单相 200V で専用の回路が必要です。 ●電源ブレーカや電線の太さなどは機器にあったものを使用してください。	
周囲に引火性危険物や腐食性ガスの発生がないこと	
●引火性危険物(灯油・ガス・ガソリン・シンナーなど)の取扱い場所、腐食性ガス(アンモニア・塩素・イオウ・酸類など)の発生する場所には設置しないでください。	
漏電遮断器の作動確認をすること	
●漏電遮断器が故障したまま使用すると、感電するおそれがあります。	
家庭用以外の使用禁止	
●この機器は家庭用です。家庭用以外に使用すると保証の対象外になります。	

特に注意していただきたいこと

⚠注意

貯湯ユニットをアンカーボルト(M12)で固定すること

- 固定しないと貯湯ユニットが転倒し、けがや事故の原因になります。



屋内の排水・防水工事をする(屋内設置の場合)

- 水漏れが起きたときに大きな被害になります。



階下給湯する場合は5m以内に設置すること

- 出湯配管を貯湯ユニットより下方に配管する場合は、必ず貯湯ユニットの設置面から5m以内にしてください。



凍結予防工事を行うこと

- 冬期には配管が凍結して破損するおそれがあります。



雨や雪が降ったときに水たまりができて水につかるような場所に設置しないこと

- 感電するおそれがあります。



ヒートポンプユニットは屋内に設置しないこと

- 正常に沸き上がらないことや凍結して破損することがあります。



排水ホッパーを排水溝に導くこと

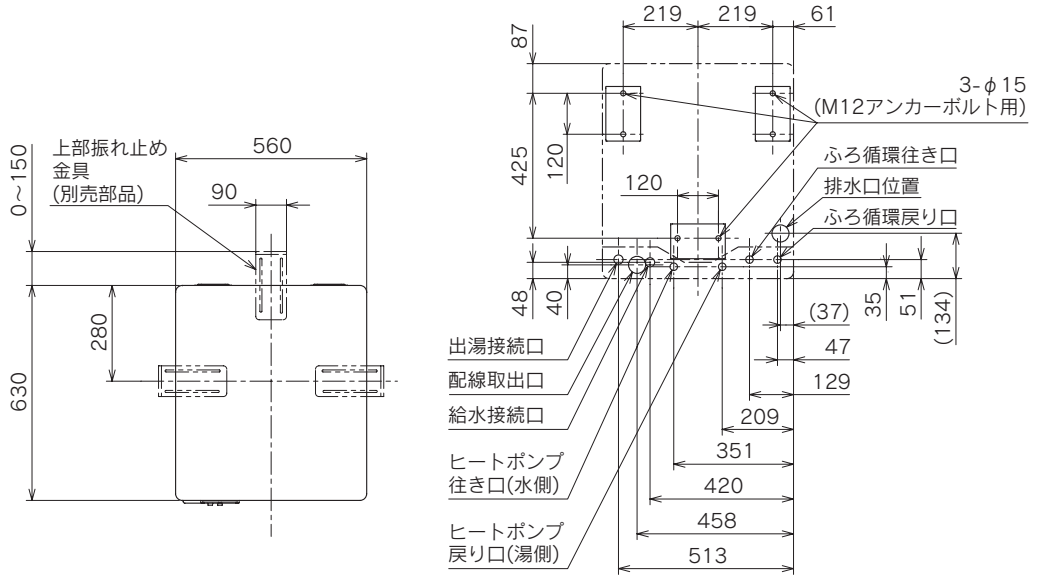
- 排水配管工事は必ず行ってください。貯湯タンクからは、沸き上げ中の膨張水が排水されます。排水配管工事を行わないと排水された膨張水により脚が水浸しになり、腐食して事故の原因になります。
- 浄化槽や下水回路への落とし込みをする場合は、貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットの排水配管に必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流し、短期間で銅配管および製品が著しく腐食して水漏れや故障を起こします。



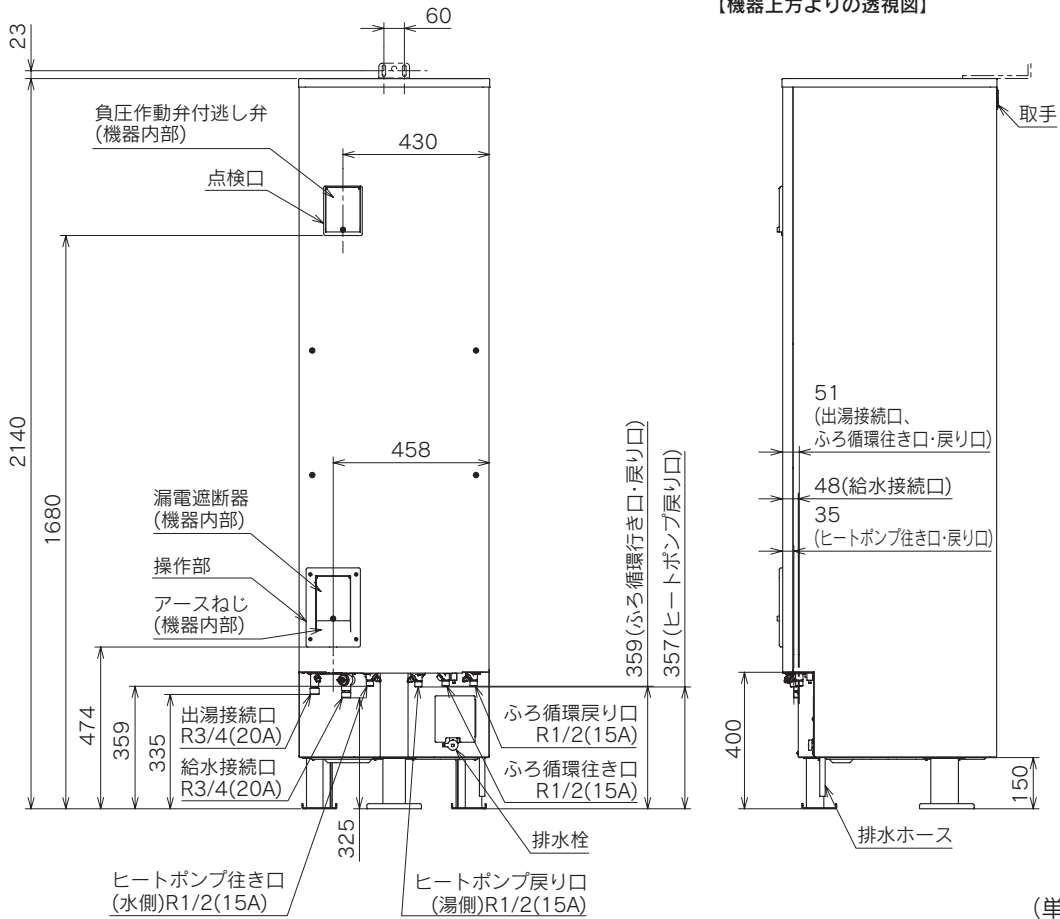
お願い

- 作業時は手袋などの保護具を着用してください。
- 強風によって貯湯ユニットが転倒するおそれがありますので、風があたらない安定した場所で開梱してください。
- 転倒するおそれがありますので、貯湯ユニットの木枠底はアンカーボルトで固定するときにはずしてください。
- 運搬するときは前パネルを上にして貯湯ユニット背面上部の運搬用取手および前脚を持って運搬してください。前パネルを下にすると変形するおそれがあります。
- この機器は上水道用ですので地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。
- 工事をするときに貯湯ユニット上面には上がらないでください。変形します。
- 高層住宅などへの吊り上げ運搬は梱包や本体を直接吊り上げないでください。
- この貯湯ユニットは太陽熱温水器とは接続できません。
- ガス機器から電気機器へ変更する際(ガス給湯器から電気温水器やエコキュートへの取替えなど)は、事前にガス事業者への連絡が必要になります。ガス事業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されておりますのでご注意ください。
- 電力契約は必ず「時間帯別電灯」契約または「季節別時間帯別電灯」契約としてください。「深夜電力」契約はできません。
- 200V電源ブレーカはすべての作業が終わるまで絶対に「入」にしないでください。
- 給水側の配管工事は水道局指定の水道工事業者に依頼してください。
- 貯湯ユニットは必ず専用のヒートポンプユニットと接続してください。
- 付属品は工事完了まで大切に保管してください。
- 配管接続時は必ずスパナを2丁掛けて行ってください。
〔締付トルク目安 15.0～18.9N・m(153～193kgf・cm)〕

外形寸法図



【機器上方よりの透視図】



(単位：mm)

※上部振れ止め金具(別売)は右、左、後のいずれか1箇所に取付け可能です。

設置工事

据付け場所の選定

- 機器は水道工事や電気工事などの付帯工事のできる場所に据付けてください。
- 据付け場所を選定するときは、次の事項をよく確認してからお客様と相談して決めてください。

雨水や雪がかからない場所

- 軒下など雨水や雪ができるだけかからない場所に設置してください。
また、水たまりができて水につかるようなところには絶対に設置しないでください。
- 積雪地域に据付ける場合、貯湯ユニットは雪を防ぐために小屋かけをしてください。
ヒートポンプユニットは別売の積雪対応品で雪対策をしてください。

周囲に燃えやすいもの(引火性危険物など)がない場所

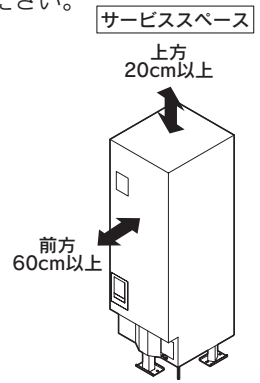
床面が不燃性の安定した場所

屋内の排水・防水工事ができる場所(屋内設置の場合)

お湯の使用頻度が多い場所の近く

設置後の保守や管理の行える場所

- 機器の周囲には点検や修理のためのサービススペースを確保してください。
- 機器が故障したときや交換時の搬入や搬出ができるように考慮してください。



■ 次のような場所には設置しないでください

- 油・蒸気・油煙の発生する場所
- 腐食性ガス(アンモニア・塩素・イオウ・酸類)の発生する場所
- 湿気の多い場所
- 積雪により、ヒートポンプユニットがふさがれてしまう場所
- 最低気温が -10°C を下回るような場所
- 海浜地区など塩分の多い場所・・・[耐重塩害仕様]は除く
- 人の出入りの多い場所、階段や避難口の近く
- 寝室の近くや運転音が隣家の迷惑になる場所
- 火気・引火物が近くにある場所

⚠ 注意

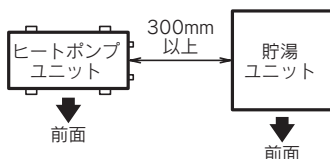
- 風の通り道に設置した場合は、周囲の温度が 0°C 以下になるときに機器内の水配管が凍結破損することがあります。

据付けの制約

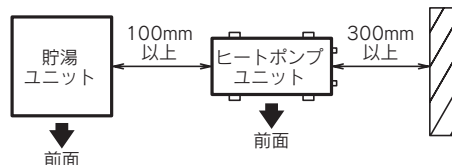
ヒートポンプユニットの据付けは、ヒートポンプユニットに付属されている「据付工事説明書」をご覧ください。

■ ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付け所要スペース

ヒートポンプユニットが左にある場合



ヒートポンプユニットが右にある場合

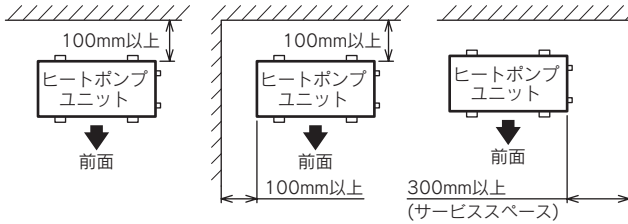


■ヒートポンプユニットの据付け所要スペース

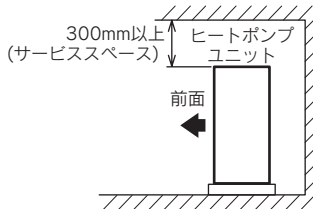
- ヒートポンプユニットの吸込口および吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据付ける場合、下記パターンに従ってください。

吹出側に障害物がない場合

【上から見た図】

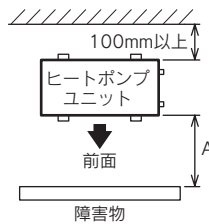


【横から見た図】

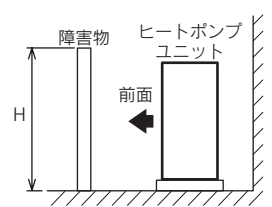


吹出側に障害物がある場合

【上から見た図】



【横から見た図】

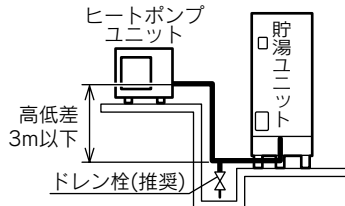


H	A
1200mm以下の場合	350mm以上
1200mmを超える場合	600mm以上

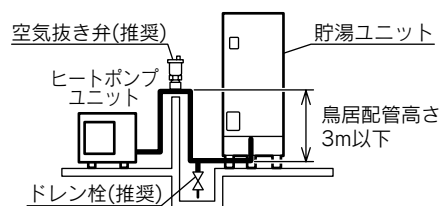
■ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の配管制約

- 性能面から配管の長さはできる限り短くしてください。
配管が長くなると放熱ロスにより貯湯温度が低下することがあります。
- ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の配管の最下部にドレン栓(水側、湯側共に)を取付けることをおすすめします。(長期外出時の凍結予防として配管内の水を抜くため)
- ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の配管の高低差は3m以下にしてください。
- 鳥居配管の高さは3m以下にしてください。
- 鳥居配管施工時には、最上部の湯側に空気抜き弁を取付けることをおすすめします。

【配管例1】



【配管例2】(鳥居配管)



- 配管には放熱を防ぐため、所定の厚さの保温材を巻いてください。

配管全長	5m未満	5m以上20m未満	20m以上25m未満
曲がり箇所	5箇所以下		
配管径	10A(アルミ三層管・架橋ポリエチレン管)		
	φ12.7(銅管)		
保温材厚さ(注1)	10mm	20mm	30mm(注2)

※アルミ三層管または架橋ポリエチレン管を使用する場合は、必ず当社純正別売部品を使用してください。
当社純正別売部品以外を使用すると、水漏れを起こすおそれがあります。

(注1)アルミ三層管の場合は保温材が巻かれています。

架橋ポリエチレン管の場合は厚さ10mmの保温材が巻かれています。

配管全長に適した保温材厚さになるように、保温材を追加巻き付けしてください。

(注2)脚部カバーを取付ける場合は、カバー内部の配管保温材厚さは20mmとしてください。

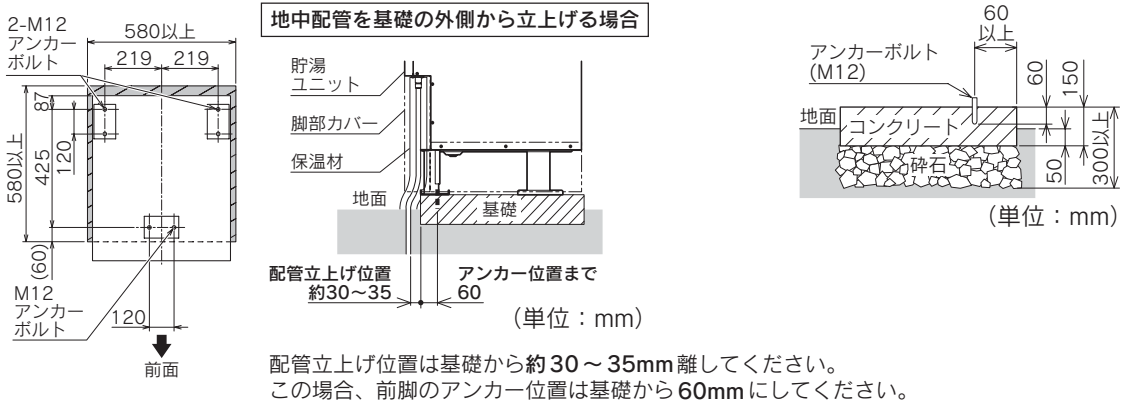
設置工事

排水工事

- 排水の基礎工事を行ってください。

基礎工事

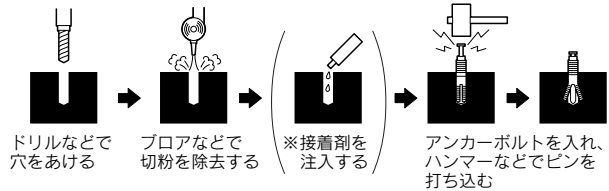
- 満水時の重量(約433kg)に充分耐える基礎工事を行ってください。
- 基礎の大きさは580mm以上×580mm以上にしてください。
- 基礎は水がたまらない構造にしてください。水がたまると錆の原因になります。



- アンカーボルトの下穴は下記を参照してください。
- アンカーボルトは引抜力が12kN以上になるように施工してください。

呼び径	ドリル径	埋込み長さ
M12	12.7	60

(単位: mm)



※接着系アンカーを使用するとより強い引抜力になります。

脚の固定

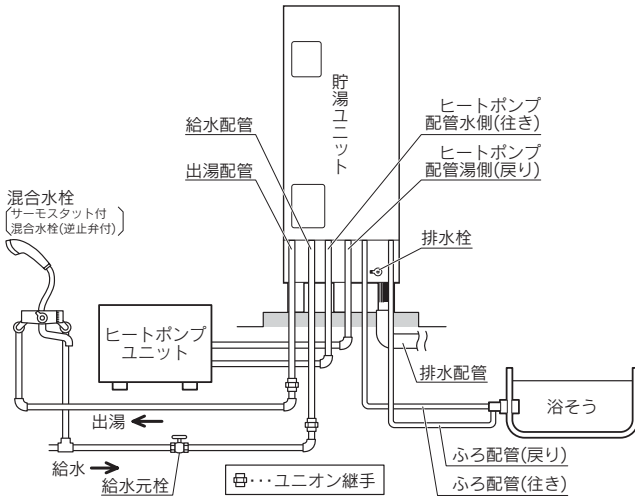
- 貯湯ユニットは転倒防止のため、脚(3箇所)を土台のしっかりした場所にアンカーボルト(M12)で固定してください。

上部振れ止め金具(別売部品)の取付け

- 2階以上に設置する場合は、上部振れ止め金具で貯湯ユニットを固定してください。
- 上部振れ止め金具を取付ける場合は、上部振れ止め金具付属の工事説明書に従って取付けてください。

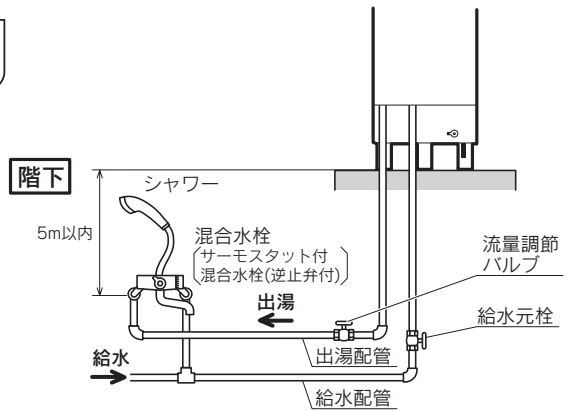
給水・出湯・ヒートポンプ・排水配管工事

標準配管例



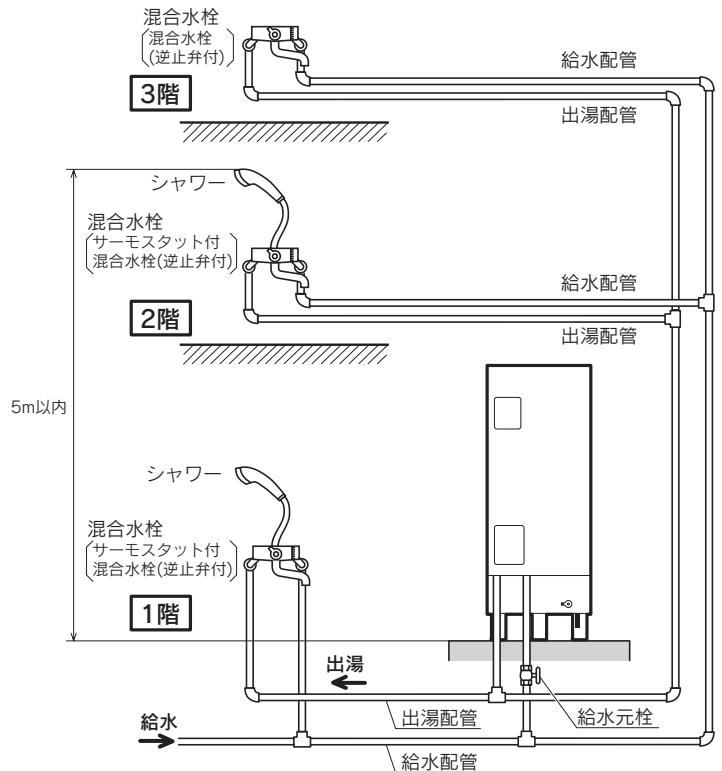
階下給湯

- 階下給湯は1箇所だけです。
- 出湯配管の途中に流量調節バルブを取付けてください。
- 混合水栓と貯湯ユニットの設置面の高低差は、5m以内にしてください。
5mを超えると、空気の混ざったお湯が出て飛び散ることがあり危険です。
- 空気の混ざったお湯が出る場合は貯湯ユニットへの給水量が不足しています。
流量調節バルブで給水量と出湯量のバランスを調節してください。



特殊配管例

- 3階に給湯できます。
- ただし圧力損失が大きいためシャワーやサーモスタット付混合水栓は使用できません。
手洗い程度であれば使用できますが、洗髪洗面化粧台は使用できません。



給水・出湯・ヒートポンプ・排水配管工事

⚠注意

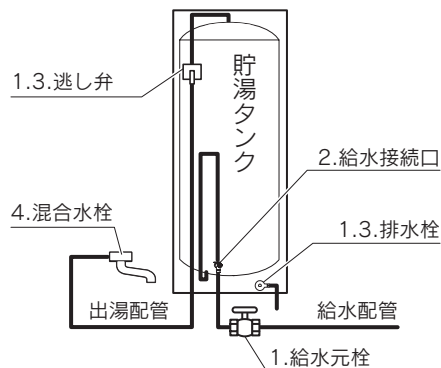
- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、所轄の水道局(課)の規定に従ってください。
- 配管材料やシール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて断熱材で保温してください。
- 架橋ポリエチレン管が直射日光にあたらないように保温工事を行い、保温材や遮熱管に耐候性がない場合はさらに耐候性のある遮光テープを巻いてください。架橋ポリエチレン管に直射日光があたると劣化して水漏れの原因になります。
- 配管の保温は水漏れ確認後に行ってください。
- この機器は上水道用です。地下水・井戸水・温泉水を使用すると、水質によっては故障することがあります。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。
- 給水圧力は0.2MPa(2kgf/cm²)以上が必要です。(給水圧力は圧力計により、1階で静水圧を測定してください。)

配管上の注意

- 上水道に直結する場合は、水道局(課)の認可が必要です。詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管材料は切断後、必ずバリ取りを行ってから使用してください。
また接続する前には必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用して接続してください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- やけど防止のため混合水栓はサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 通電中は貯湯タンク内の膨張水が出ますので、排水ホースは排水ホッパーや排水配管で排水溝に導いてください。
- 耐熱塩ビ管(HT管など)を接着接続した場合は、接着剤が給水接続口の水フィルタなどへ付着しないよう硬化後通水してください。使用する接着剤の種類・使用量・養生時間などは接着剤メーカーの説明書に従ってください。

●接着剤やフラックスが貯湯タンク内に入り、お湯から悪臭が発生した場合は、以下の処置を行ってください。

1. 給水元栓を閉めて逃し弁のレバーを上げてください。
排水水栓を「排水」の位置にして貯湯タンク内の水をすべて抜いてください。
2. 給水接続口の水フィルタを掃除、または交換してください。
3. 排水水栓を「通常」の位置にして給水元栓を開け、貯湯タンクが満水になってから逃し弁のレバーを下げてください。
4. 配管内を洗浄するために、各混合水栓から10分程度水を流してください。



給水配管

- 給水接続口の近くには必ず給水元栓を取付けてください。
- 貯湯ユニットの底面より下にドレン栓を取付けて水抜きができるようにしてください。
(長期外出時の凍結防止として配管内の水を抜くため。)

出湯配管

- 機器は使用頻度が高い場所の近くに取付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 水抜き、空気抜きを容易にするため1/100～1/200程度の先上がり勾配にしてください。
- 配管は耐食性のあるステンレス管・銅管・架橋ポリエチレン管などを使用してください。
- 逆止弁付混合水栓を使用してください。

特に浴室ではやけど防止のためサーモスタット付混合水栓などを使用してください。

サーモスタット付混合水栓を使用する場合は、構造により出湯量が極端に少なくなる場合がありますので、混合水栓の最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。

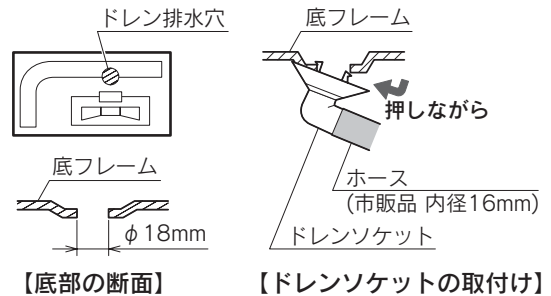
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。

ヒートポンプ配管

- 配管は銅配管または別売の保温材付アルミ三層管、保温材付架橋ポリエチレン管を使用してください。
フレキ管は使用しないでください。
- ※アルミ三層管または架橋ポリエチレン管を使用する場合は、必ず当社純正別売部品を使用してください。
当社純正別売部品以外を使用すると、水漏れを起こすおそれがあります。
- 凍結のおそれがある地域の屋外では保温材は厚さ20mm以上を使用してください。
(配管長20m以上の場合は、厚さ30mmの保温材を使用してください。)
またバルブ、継手類も確実に保温してください。

ヒートポンプユニットのドレン工事

- ドレン排水するときは、ヒートポンプユニット付属のドレンソケットを使用してください。
- 排水穴が取付台や床面などでふさがれる場合や、凍結のおそれがある地域では、ヒートポンプユニットの脚下に8cm以上の置台(アイブロックなど)を入れてください。
- 凍結のおそれがある地域ではヒートポンプユニットのドレン排水は「タレ流し」にしてください。
ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結して給湯効果が損なわれることがあります。

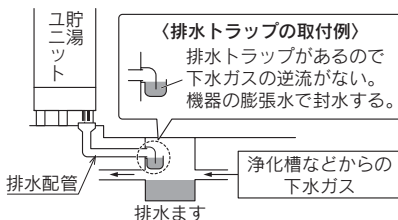


排水配管

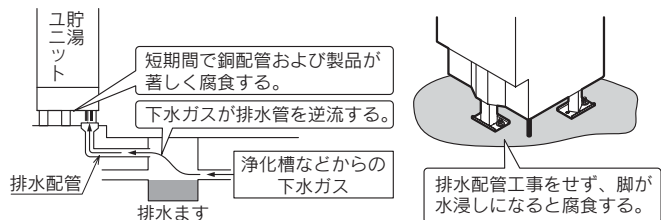
⚠注意

- 排水配管工事は必ず行ってください。貯湯タンクからは、沸き上げ中の膨張水が排水されます。
排水配管工事を行わないと排水された膨張水により脚が水浸しになり、腐食して事故の原因になります。
- 排水ホッパーを排水溝に導いてください。
- 浄化槽や下水回路への落とし込みをする場合は、貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットの排水配管に必ず排水トラップを設置してください。
排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流し、短期間で銅配管および製品が著しく腐食して水漏れや故障を起こします。(排水トラップに使用する部材や接着剤は耐熱性のあるものを使用してください。)

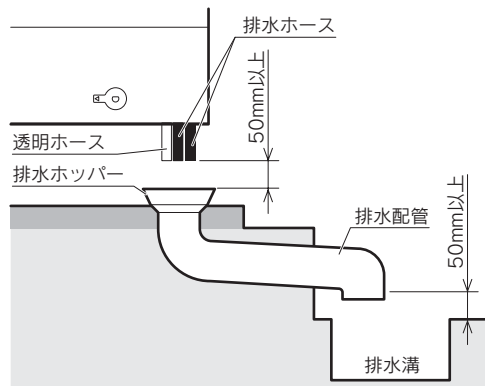
○ 腐食が発生しない 正しい施工例



✕ 腐食が発生する 誤った施工例



- 排水ホース・透明ホースと排水ホッパーとの間隔は50mm以上必要です。
排水ホース・透明ホースを適切な長さに切断して、調整してください。
- 排水用の管材は塩化ビニル管(VP管またはVU管)50Aを使用して、下り勾配をつけてください。
- 排水ホースが排水ホッパーの真上にならない場合は、真上になるように針金などで固定し、排水される水(湯)が排水ホッパーからこぼれ出ないようにしてください。



給水・出湯・ヒートポンプ・排水配管工事

配管の保温工事

- 配管はすべて断熱材で保温してください。
- 配管の保温は水漏れ確認後に行ってください。
- 地中配管や屋外など雨露のかかる保温箇所、保温材の端面は防水処理を行ってください。

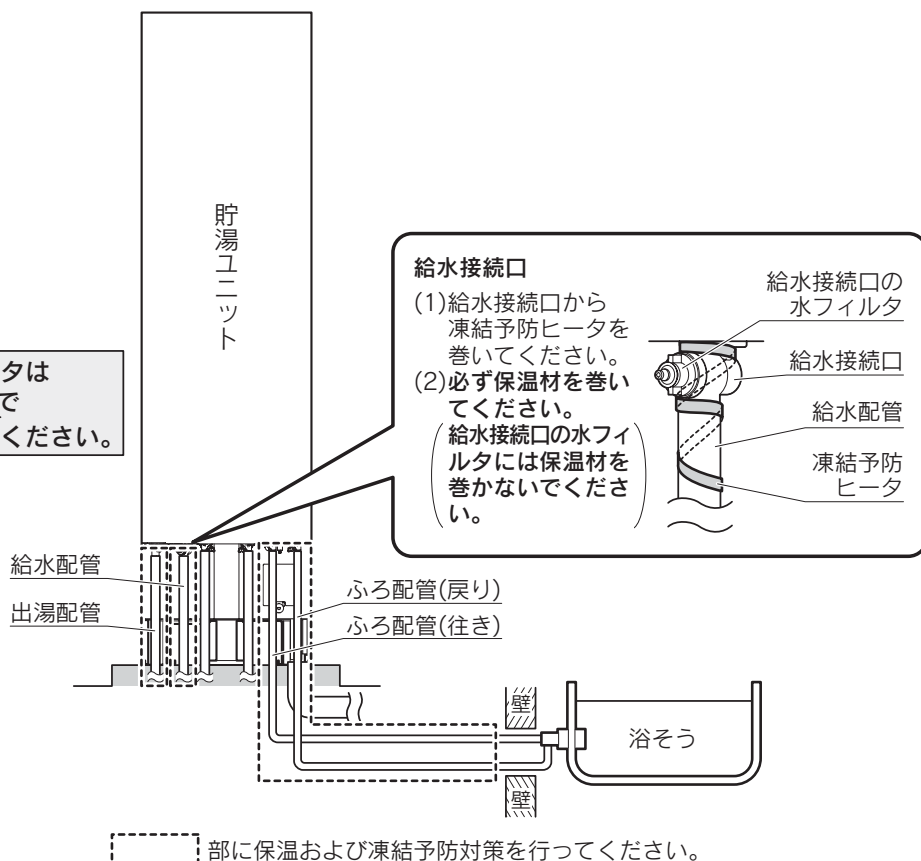
配管の凍結予防工事

- 保温工事をしていても風雪にさらされる場所に設置していたり周囲の温度が0℃以下になる場合は配管が凍結します。
凍結により機器や配管が破損しないよう、適切な凍結予防対策(凍結予防ヒータの使用)を行ってください。

凍結予防ヒータを使用する場合

- 1.市販の凍結予防ヒータを配管やバルブ類に巻きます。
サーモスタット部は必ず配管に密着させて取付けてください。
 - 2.凍結予防ヒータは何本も使用しますので適当な位置にコンセントを設けてください。
- 凍結予防対策とその操作方法をお客様に十分に説明してください。
 - 絶対に配管に水がない状態で凍結予防ヒータに通電しないでください。

凍結予防ヒータは
約10cm間隔で
配管に巻いてください。



定期点検

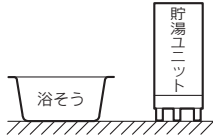
- この機器は給水用具(逆流防止装置)を内蔵しています。
機器を安心して長くご使用いただくために、給水用具(逆流防止装置)に関しては(社)日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。
時期は4～6年に1回程度をお客様におすすめください。

ふる配管工事

据付けの基準寸法

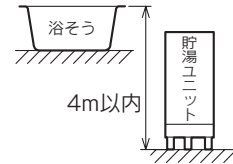
貯湯ユニットと浴そうが同一床面の場合

- 配管の全長は15m以内(片道)



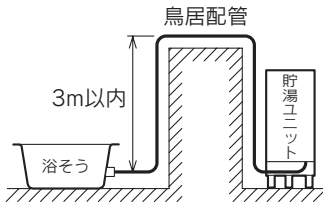
貯湯ユニットより浴そうが高い場合(上限)

- 浴そうのあふれ縁と貯湯ユニットの設置面は4m以内
配管の全長は15m以内(片道)



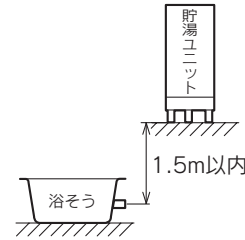
貯湯ユニットと浴そうの間に鳥居配管がある場合

- 浴そうの循環口から3m以内で1箇所のみ
配管の全長は15m以内(片道)



貯湯ユニットより浴そうが低い場合(下限)

- 浴そうの循環口の中心部と貯湯ユニットの設置面は1.5m以内
配管の全長は15m以内(片道)



ふる配管の条件

- 配管の長さは上図の通りですが、できるだけ短くなるように施工してください。配管が長くなるほど、また曲がりの数が多いほど沸き上がりが遅くなります。ユニットバスの場合は、ユニットバス内での引き回しに約2~3m必要です。
 - ・銅管 φ12.7mmの場合は片道15m、10曲がり
 - ・樹脂管10Aの場合は片道15m
- 接続できる浴そうは1箇所のみです。

ふる配管の注意

- ふる配管部品は別売です。ふる配管には必ず銅管(絶縁パイプは0.5m以上必要です。)、または樹脂管を使用してください。
 - ・銅管 φ12.7mm同等品〔別売部品：ペアチューブ・ハイブリッドホース・ツインチューブ〕
市販品：φ12.7mm(3/8)ペアチューブ(ペア被覆銅管)
 - ・樹脂管10A〔内圧200kPa(2kgf/cm²)以上で80℃の温度に耐える仕様のもの〕
- ふる循環戻り口とふる循環行き口は樹脂製ですので接続時締めすぎなどに注意してください。
- ライニング銅管用継手は使用しないでください。
- 一口循環口は当社純正別売部品を使用し、一口循環口付属の工事説明書に従って工事を行ってください。当社純正別売部品を使用しないと、機器が正常に使用できない場合があります。詳しくはお近くの工場・支店・営業所にお問い合わせください。

ふる配管の接続

- 一口循環口を接続してください。
- 銅配管の場合は付属の銅管アダプタを使用し、パッキンを忘れずに入れてください。
- 樹脂配管の場合は内径φ8mm以上の継手を使用し、途中でつながないでください。
- 機器に接続する前に必ず配管内のゴミを排出してください。
- 保温および凍結予防のために必ず保温工事を行ってください。
- 配管を機器に接続する場合は、必ずスパナ・パイプレンチなどを接続口にかけて、機器内に無理な力がかからないように注意して接続してください。

リモコンの接続

- リモコンは必ず取付けてください。取付けないと操作ができません。
- この機器には別売の増設リモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくてもできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは200V電源ブレーカを「切」にした状態で接続してください。

リモコンの取付けは、それぞれに付属されている「工事説明書」をご覧ください。

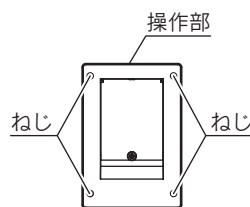
機器との接続(「電気配線工事」の項も参照してください。)

15 ページ

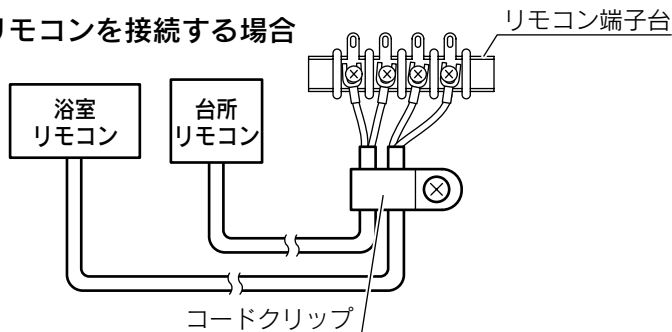
警告

- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。
また、リモコンコードを切断して使用するとき、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。

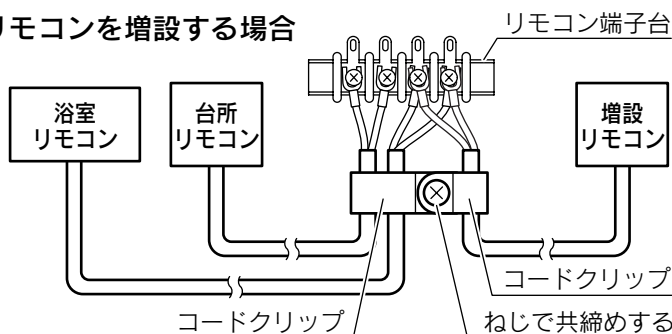
- 1.貯湯ユニットの前パネルの操作部のねじ(4本)をはずして操作部をはずします。
- 2.リモコンコードを配線取出口から通し、リモコン端子台に導きます。
- 3.リモコンコードをリモコン端子台に接続します。
リモコンコードは無極性ですので、どちらに接続してもかまいません。
- 4.リモコンコードをコードクリップでしっかりと固定します。



リモコンを接続する場合



リモコンを増設する場合



- 増設リモコンのリモコンコードはリモコン端子台の台所リモコン側、浴室リモコン側のどちらでも取付けることができます。ただし一對の端子台に3個以上接続しないでください。

電気配線工事

電源が200Vであることを確認してください。

警告

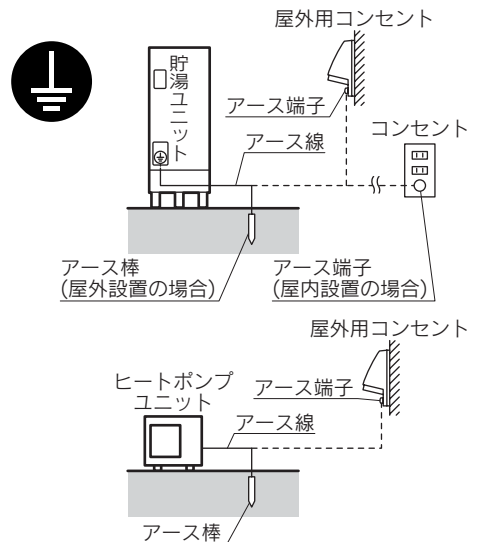
- 電源配線は束ねたまま使用しないでください。
また、余った電源配線やアース線は機器内に入れないでください。火災のおそれがあります。

電気配線上の注意

- 電気配線工事は指定工事業者に依頼してください。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて施工してください。
- 絶対に貯湯タンクに給水する前に漏電遮断器を「ON」にしないでください。
- 電力会社への申請は適切に行ってください。
- 電力契約は必ず「時間帯別電灯」契約または「季節別時間帯別電灯」契約としてください。
「深夜電力」契約はできません。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。
アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づいて、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗 100Ω以下)
- 貯湯ユニットとヒートポンプユニットはそれぞれアース工事を行ってください。
ヒートポンプユニットのアース工事は、ヒートポンプユニットの据付説明書を参照してください。
- 漏電遮断器を入れた他の製品の保護アース回路には接続しないでください。
- アース端子の位置は次ページの図で確認してください。
- アース棒は地中30cm以上の深さに打ち込み、地面に出ないようにしてください。
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。



埋設に適する場所

- 湿気の多い場所

埋設を避ける場所

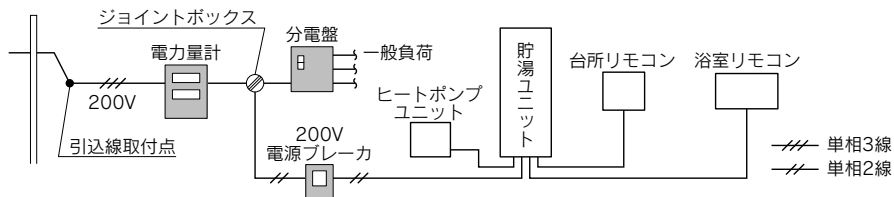
- 地下埋設物のある場所
(ガス管・水道管・地下ケーブル・引込管など)
- 避雷針や電話のアースから2m以内
- ガス、酸などで腐食するおそれがある場所
- 人通りの多い場所

使用電源

- 電源は単相200Vです。専用の電源回路を設けてください。

200V電源 ブレーカ	電源配線の太さ	アース線の太さ
20A	3.5mm ² キャブタイヤコード またはVVf φ2.0mmコード	2mm ² コード またはIV φ1.6mm以上

●引込口から機器までの回路

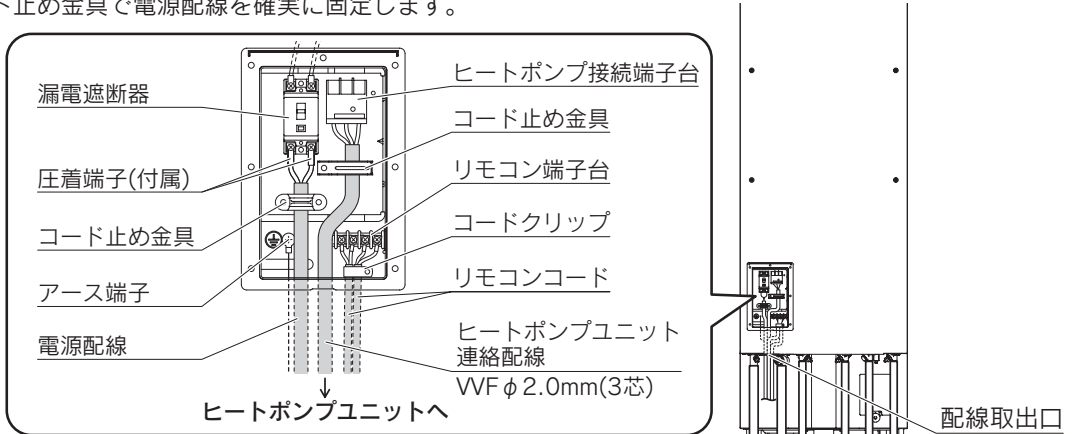


電気配線工事

電源の接続

貯湯ユニットの配線

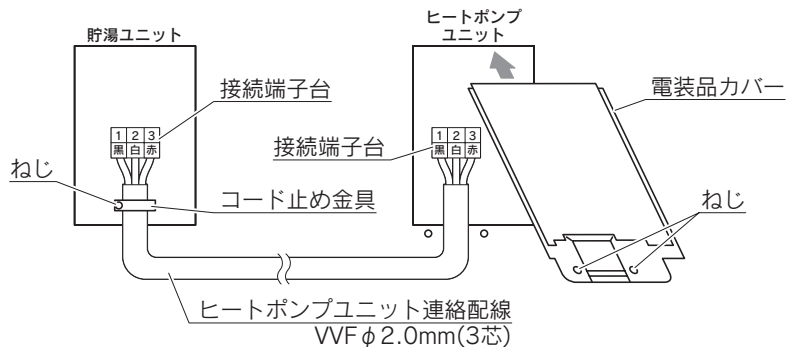
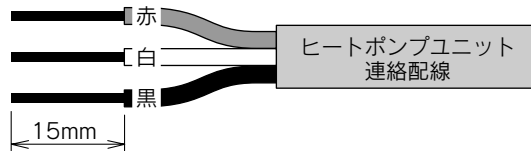
- 1.前パネルの操作部を取りはずします。
- 2.電源配線を配線取出口から通し、漏電遮断器に導きます。
- 3.漏電遮断器の下側に付属している圧着端子をはずし、電源配線にカシメ工具でかした後、漏電遮断器に確実に固定します。(200V電源端子の締付け)
- 4.コード止め金具で電源配線を確実に固定します。



●電源配線、ヒートポンプユニット連絡配線は貯湯タンク内部でたるませないでください。

貯湯ユニット～ヒートポンプユニット連絡配線

- 1.ヒートポンプユニット連絡配線の被覆を約15mm切取ります。
- 2.ヒートポンプユニットのカバーをはずします。
- 3.ヒートポンプユニット連絡配線を各接続端子台に接続します。
 - ・ヒートポンプユニット連絡配線の色と接続端子台の色を合わせてください。
 - ・検電口から芯線が見えるまで差し込みます。
 - ・挿入後軽く引張り、確実に接続したことを確認してください。
- 4.貯湯ユニットはコード止め金具で、ヒートポンプユニットはカバーでヒートポンプユニット連絡配線を確実に固定します。



- 5.貯湯ユニットの前パネルに操作部を取付けます。
- 6.ヒートポンプユニットにカバーを取付けます。

オート試運転前の準備

- この貯湯ユニットはオート試運転が完了しないと使用できません。
必ず下記に従ってオート試運転(18ページ参照)を行ってください。

⚠注意

- 配管が熱くなりますので、やけどに注意してください。

1 水を貯める準備

- 点検口のふたを開き、逃し弁のレバーを上げます。

2 貯湯ユニットを満水にする

- 1.貯湯ユニットの排水栓が「通常」の位置になっていることを確認します。

貯湯ユニットの排水栓位置



- 2.給水元栓を開けます。

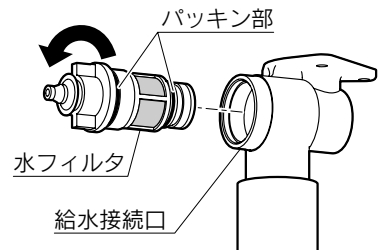
- 3.逃し弁の排水ホースから連続的に水が出ることを確認します。
水が出るまで約20～30分かかります。

逃し弁の排水ホースから連続的に水が出れば貯湯タンクは満水です。

- 4.逃し弁のレバーを下げ、点検口のふたを閉じます。
- 5.混合水栓の給湯栓を開けて水を流します。
(サーモスタット付混合水栓の場合は40℃に設定して水を流します。)
- 6.給湯栓を閉めます。
- 7.配管接続部から水漏れがないことを確認します。

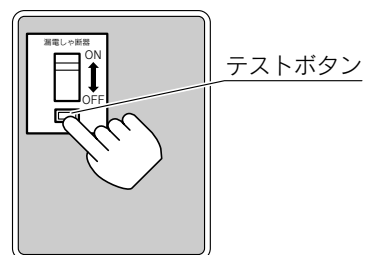
3 給水接続口の水フィルタの掃除

- 1.給水元栓を閉めます。
- 2.給水接続口の水フィルタを取りはずして掃除し、パッキン部をきれいにふいて、元通りに取付けます。
パッキン部に傷をつけないように注意してください。
- 3.給水元栓を開け、給水接続口の水フィルタから水漏れがないことを確認します。

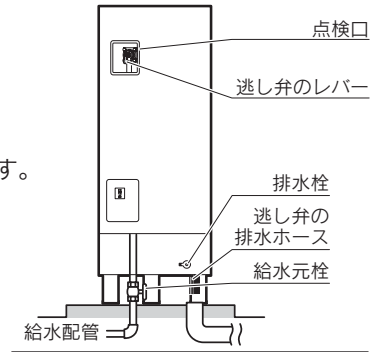


4 電源投入

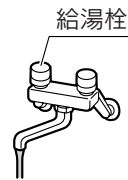
- 1.200V電源ブレーカを「入」にします。
- 2.貯湯ユニットの漏電遮断器を「ON」にします。
- 3.漏電遮断器のテストボタンを押して作動確認をします。
「ON」になっている漏電遮断器が「OFF」になると正常です。
- 4.正常であれば漏電遮断器を「ON」にします。



【貯湯ユニット】



【混合水栓】



オート試運転前の準備

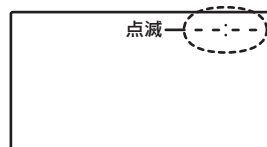
5 現在時刻の設定

- 現在時刻設定は台所リモコンで行います。
- 現在時刻を設定しないと操作ができません。
現在時刻が設定されていないときは時刻表示部に「--:--」が点滅します。
- この機器は申請により、通電制御型として電気料金の割引が適用されます。
- 浴室リモコンの表示画面には、「--:--」と表示します。
増設リモコンの表示画面には、「時刻設定中」と表示します。

1. リモコンのふたを開き、いずれかのスイッチを押すと時刻設定画面になります。

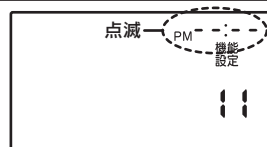
音声で「時計を合わせてください」とお知らせします。

台所リモコン表示画面



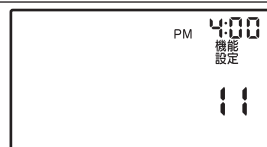
2. 「**設定+**」を押して現在時刻を設定し、「**確定**」を押します。

1回ずつ押すと1分、押し続けると10分単位で変わります。
(AMは午前、PMは午後です。)



3. 音声で「変更されました」とお知らせし、現在時刻が点滅から点灯に変わります。

「**確定**」を押すとオート試運転を開始します。



オート試運転

オート試運転を行わないと正規の運転ができません。以下の手順に従ってオート試運転を完了させてください。

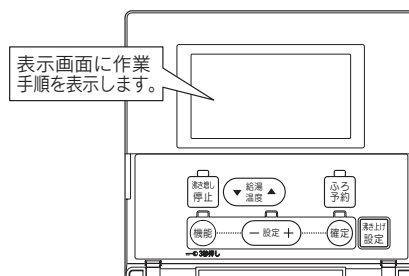
⚠️ 注意

- オート試運転を行う前に貯湯タンクが満水になっていることを確認してください。
オート試運転では自動的にエア抜き運転を行います。貯湯タンクが満水になっていない状態でオート試運転を行うと、機器が故障する原因になります。
逃し弁のレバーを上げ、排水ホースから連続的に水が出れば貯湯タンクは満水です。

オート試運転

- オート試運転は台所リモコンで行います。
- オート試運転中は、台所リモコンの表示画面にオート試運転の状況を表示します。台所リモコンの表示に従ってください。
- 浴室リモコンの表示画面には「Si」、増設リモコンの表示画面には「オート試運転中」と表示します。

台所リモコン



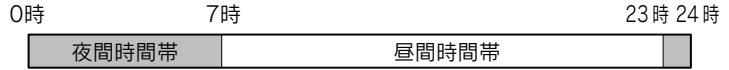
ふたを開いた状態です。

■電力制度の内容

「d01」表示

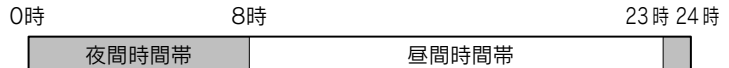
北海道電力…ドリーム8B
 東北電力…やりくりナイト8
 東京電力…おトクなナイト8
 北陸電力…エルフナイト8
 中部電力…タイムプラン
 四国電力…電化Deナイト
 関西電力
 四国電力
 九州電力
 沖縄電力

…時間帯別電灯
 (8時間型)



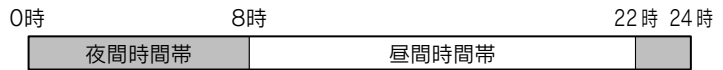
「d02」表示

中国電力…エコノミーナイト
 (時間帯別電灯)



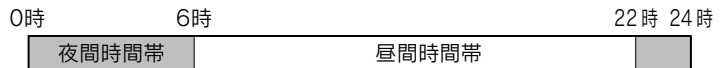
「d03」表示

東北電力…やりくりナイト10
 やりくりナイトS
 東京電力…おトクなナイト10
 北陸電力…エルフナイト10
 九州電力…よかナイト10



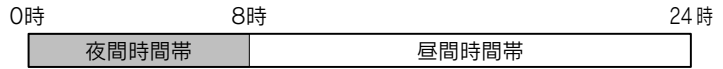
「d04」表示

北海道電力…ドリーム8A



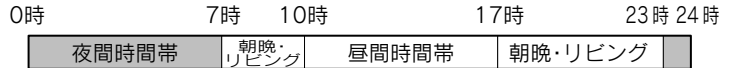
「d05」表示

北海道電力…ドリーム8C



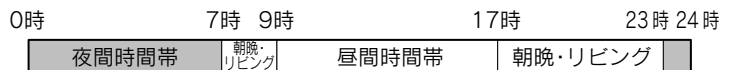
「h01」表示

東京電力…電化上手
 関西電力…はびeタイム
 沖縄電力…Eeらいふ



「h02」表示

中部電力…Eライフプラン



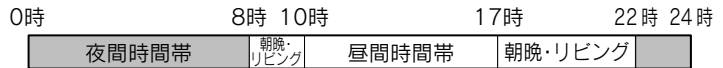
「h03」表示

中国電力…ファミリータイム



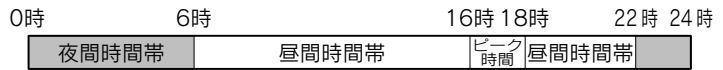
「h04」表示

北陸電力…エルフナイト10プラス
 九州電力…電化Deナイト



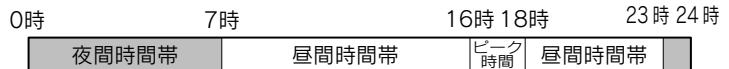
「h05」表示

北海道電力…ドリーム8エコA



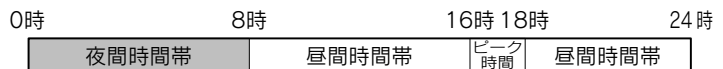
「h06」表示

北海道電力…ドリーム8エコB



「h07」表示

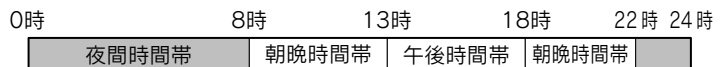
北海道電力…ドリーム8エコC



ドリーム8エコのピーク時間は冬期間(12月~3月)のみです。
 その他の期間(4月~11月)はピーク時間の設定はありません。

「h08」表示

北海道電力…eタイム3



オート試運転

オート試運転中にエラーが発生した場合

- 配線図に従ってエラーの原因を除去し警報を解除します。
(配線図は貯湯ユニットの前パネル内面に貼り付けてある袋に入っています)
表示画面に「99」(試運転異常)とエラーコードを表示します。(24・25 ページ参照)
- 再度オート試運転を行ってください。

●オート試運転は台所リモコンで行います。

1. オート試運転開始

台所リモコン表示画面



2. **確定** を押します。

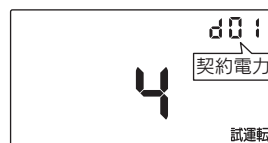


3. **確定** を押します。
エア抜き運転を開始します。



6秒後

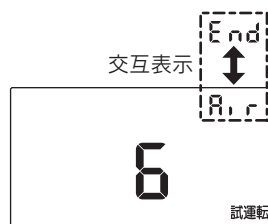
4. 音声で「電力契約を設定してください」とお知らせします。
(d01～d05、h01～h08のいずれかを表示します)
定+ を押して契約電力を合わせます。(19ページ参照)



5. **確定** を押します。
エア抜き運転を継続します。

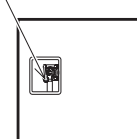


6. エア抜き運転完了



7. **確定** を押します。
逃し弁のレバーをゆっくり上げ貯湯タンク内の空気を抜きます。
排水ホースから空気が出なくなったら、逃し弁のレバーを下げます。

逃し弁のレバー

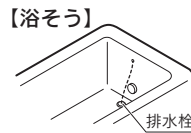


【貯湯ユニット】

確定 を押します。



8. 必ず浴そうを空にして排水栓をしてください。
(残り湯があると正確な水位設定ができません。)



9. **確定**を押します。
ふろ試運転を開始します。
ふろ試運転中は浴そうの水にふれないでください。
(正確な水位設定ができません。)
混合水栓から浴そうにお湯(水)を入れしないでください。



↕ 交互表示

- 沸き上げ試運転を開始します。
ふろ試運転、沸き上げ試運転は通常約10~30分かかります。
60分以上継続する場合は下記の項目を確認してオート試運転をや
り直してください。
・浴そう排水栓の抜けなど
・ヒートポンプ配管の誤接続、つまりなど



10. 音声で「ふろ試運転が正常に終了しました」とお知らせします。



↕ 交互表示

音声で「沸き上げ試運転が正常に終了しました」とお知らせします。



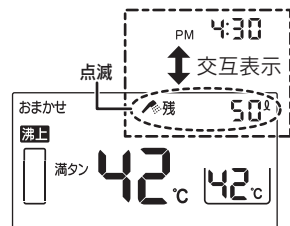
11. **確定**を押します。
オート試運転を終了します。



3秒後

12. 音声で「このまま沸き上げ運転を継続します」とお知らせし、沸き
上げ運転を継続します。

全量沸き上げが完了したら通常の表示になります。
沸き上げには約5時間以上かかります。



現在時刻、電力制度を変更・修正する場合は、取扱説明書に従ってください。

オート試運転終了後

⚠ 注意

- オート試運転終了後に、お客様が使用するまでに期間があり、冬期をはさむ可能性がある場合は、凍結して機器が破損することを予防するため取扱説明書の「長期間使用しない場合」に従って水を抜いてください。
- 水抜き方法は機種によって異なりますので、必ず付属の取扱説明書に従ってください。
ヒートポンプユニットの水抜きも行ってください。

オート試運転後、200V電源ブレーカを「入」のままにする場合

お客様への引き渡しまでの期間が短い場合

- オート試運転終了後、そのまま沸き上げ運転を継続してください。

お客様への引き渡しまでの期間が長い場合

- オート試運転時に設定した浴そう水位が変わることがあります。
その場合は引き渡し時に再度「**マニュアル試運転**」の**ふる試運転** (23 ページ参照) を行ってください。

オート試運転後、お客様への引き渡しまでの期間が長く、200V電源ブレーカを「切」にする場合

機器の水を抜く場合

- 冬期をはさむ可能性がある場合は、機器や配管内に残った水が凍結して機器や配管が破損することがありますので、取扱説明書の「長期間使用しない場合」に従って水を抜いてください。
- 後日お客様へ引き渡すときに、再度「**オート試運転前の準備 1～5**」 (17・18 ページ参照) と、「**マニュアル試運転**」の**エア抜き試運転**と**沸き上げ試運転** (23 ページ参照) を行い、そのまま沸き上げ運転を継続してください。

機器の水を抜かない場合(凍結のおそれがない場合)

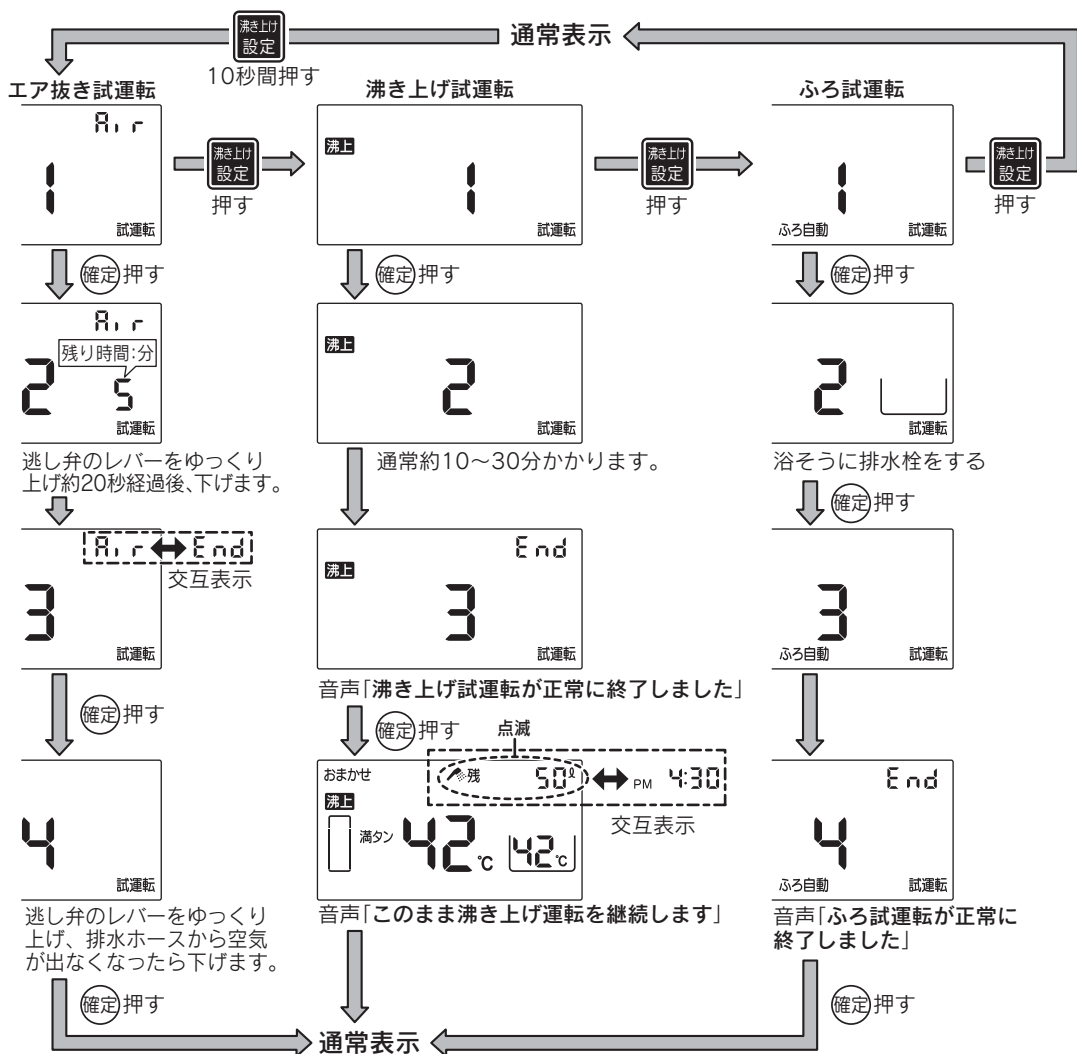
- 後日お客様へ引き渡すときに、200V電源ブレーカを「入」にし、「**5 現在時刻の設定**」 (18 ページ参照) を行い、沸き増しスイッチで「**満タン [12 時間]**」 (取扱説明書参照) を選択してください。

マニュアル試運転

- オート試運転が完了した後、機器の水抜きを行った場合は、マニュアル試運転を行ってください。
- マニュアル試運転は台所リモコンで行います。
台所リモコンの沸き上げ設定スイッチを10秒間押すと、マニュアル試運転モードに切り替わり、浴室リモコンの表示画面には「Si」、増設リモコンの表示画面には「マニュアル試運転中」と表示します。

マニュアル試運転中にエラーが発生した場合

1. 確定ボタンを押して通常表示に戻し、配線図に従ってエラーの原因を除去し警報を解除してください。
(配線図は貯湯ユニットの前パネル内面に貼り付けてある袋に入っています)
表示画面に「99」(試運転異常)とエラーコードを表示します。(24・25ページ参照)
2. 再度マニュアル試運転を行ってください。



エラーコードについて

エラーコード(警報)表示

- エラーコード(警報)はリモコンの表示画面に表示します。
- エラーコードが表示された場合は24・25ページに従って処置を行ってください。

■貯湯ユニット

エラーコード	解除方法	原因
740	1	台所リモコン通信異常
750	1	浴室リモコン・増設リモコン通信異常
760	2	リモコン通信異常
E16	2	給湯高温検知
E31	2	給湯サーミスタ異常
E32	3	給水サーミスタ異常
E65	2	給湯混合弁異常
F00	2	初回残り湯検知
F03	2	お湯はり時間超過
F16	2	お湯はり高温検知
F25	2	水流スイッチ異常
F31	2	お湯はりサーミスタ異常
F32	2	ふろサーミスタ異常
F43	2	水位センサ異常
F46	2	ふろ循環ポンプ異常

エラーコード	解除方法	原因
F56	2	お湯はり異常
F59	2	循環口漏れ検知
F65	2	お湯はり混合弁異常
H15	2	缶体高温検知
H30	2	缶体上サーミスタ異常
H31	3	残湯量サーミスタ1異常
H32	3	残湯量サーミスタ2異常
H33	3	残湯量サーミスタ3異常
H34	3	残湯量サーミスタ4異常
H35	3	残湯量サーミスタ5異常
H57	2	膨張水三方弁異常
H70	3	電源周波数異常
U45	2	沸き上げポンプ異常
U54	2	沸き上げ三方弁異常
U76	3	貯湯ユニット～ヒートポンプユニット間通信異常

■ヒートポンプユニット

エラーコード	解除方法	原因
E1	1	制御基板不良
E6	1	圧縮機起動不良
E7	1	室外ファンロック
E8	1	入力過電流検出による停止
EC	1	出湯温度異常による停止
F3	1	吐出管温度制御による停止
FA	1	ピークカット異常による停止
H0	1	電圧・電源センサ不良
H3	3	高圧圧力スイッチ系による停止
H6	1	位置検出センサ不良による停止
H8	1	CT系異常検出による停止
H9	3	外気サーミスタ異常
HC	3	出湯サーミスタ異常

エラーコード	解除方法	原因
HJ	1	循環水系統不良
J3	1・3	吐出サーミスタ異常
J6	3	熱交温度サーミスタ異常
J8	3	入水サーミスタ異常
L4	1	放熱フィン温度異常
L5	1	出力過電流検出による停止
P4	3	放熱フィンサーミスタ系異常
U0	1	ガス欠検出による停止
U2	1	電源電圧系異常
U4	3	貯湯ユニット～ヒートポンプユニット間通信異常
UF	1	貯湯ユニット～ヒートポンプユニット間誤配管検出

エラー発生時の処置

- エラーが発生した場合は、配線図に従ってエラーの原因を除去し警報を解除します。
(配線図は貯湯ユニットの前パネル内面に貼り付けてある袋に入っています。)

警報解除の方法

解除方法1…《貯湯ユニットの場合》

漏電遮断器を3秒以上「OFF」にした後、再度「ON」にします。それでも解除できない場合は、制御基板上的リセットスイッチを押します。

制御基板上的リセットスイッチを押すと、現在時刻が消去されますので、再度時刻設定を行ってください。

《ヒートポンプユニットの場合》

漏電遮断器を3秒以上「OFF」にした後、再度「ON」にします。

解除方法2…リモコンのふたを開き、確定スイッチを10秒間押し続けます。

解除方法3…正常温度検出、または正常作動で自動復帰します。

- オート試運転中にエラーが発生した場合は、警報解除後下記に従ってください。
 1. 漏電遮断器を3秒以上「OFF」にした後、再度「ON」にします。
 2. 再度オート試運転を行ってください。

お客様への説明

- 取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明してください。
- 取扱ガイドに従ってエコキュートの上手な使い方をお客様に説明してください。
- 保証書に必ず必要事項をご記入のうえお客様にお渡しください。
また、取扱説明書に従って、「アフターサービス」について説明してください。
- 設置工事終了後、工事説明書は取扱説明書、保証書、取扱ガイドと共にお客様にお渡しください。

チェックリスト

●試運転終了後、次の項目を確認してください。

確認事項		チェック欄
据付け状態および据付け工事	据付け床面の防水・排水工事をしていますか	
	貯湯ユニットはしっかり水平に据付けられていますか	
	貯湯ユニットの脚はアンカーボルトで固定されていますか	
	貯湯ユニットの満水時の重量に充分耐える工事がされていますか	
	貯湯ユニットやヒートポンプユニットの据付け所要スペースは確保されていますか	
	周囲に引火性のものはありますか	
	排水栓を「通常」の位置にしましたか 給水元栓は開いていますか	
	給水配管・出湯配管・貯湯ユニット内・その他の配管接続部からの水漏れはありませんか	
	ヒートポンプユニットはしっかり据付けられていますか	
	外装に傷・変形・汚れなどはありませんか	
配管工事	逃し弁のレバーをゆっくり開閉し、放水・止水が正常にできますか	
	給水元栓は適切な位置に取付けられていますか	
	排水ホース・透明ホースと排水ホッパーの間隔は50mm以上ありますか	
	ヒートポンプユニットのドレンホースは排水できる位置にありますか	
	保温工事は適切に行われていますか	
	凍結予防工事は適切に行われていますか	
電気工事	給水接続口の水フィルタは点検しましたか	
	漏電遮断器の作動確認を行いましたか	
	アース工事は確実にされていますか	
	連絡配線およびリモコンコードは正しく接続されていますか	
	電力会社と「時間帯別電灯」契約または「季節別時間帯別電灯」契約をしていますか	
試運転	200V電源端子の締付けは確実にされていますか	
	電源が200Vであることを確認しましたか	
その他	試運転は問題・異常なく終了しましたか	
	シャワーからの流量は充分ですか	
	逃し弁のレバーを上げ排水栓を開けたときに、排水ホッパーから排水があふれることがないですか	
	点検口・操作部は確実に閉じましたか	
	試運転終了後、お客様への引き渡しまでの期間に、冬期をはさむ場合は機器内の水を抜きましたか	
	取扱説明書に従って取扱方法をお客様に説明しましたか	
	取扱ガイドに従ってエコキュートの上手な使い方をお客様に説明しましたか	
	保証書に必要な事項を記入して、お客様に販売店(工事店)の連絡先を伝えましたか	
取扱説明書・保証書・工事説明書・取扱ガイドをお客様にお渡しください		

試運転実施日： 年 月 日

様

私が責任を持って試運転を行いました。

住宅設備機器総合メーカー
株式会社 長府製作所



●本社 〒752-8555 山口県下関市長府扇町2-1 ☎(083)248-1111
FAX(083)248-1906